



助言的意見

Advisory Opinion:

ソーシャルメディア時代における専門家としてのありかた

Professionalism in the Social Media Age

IBLCE には専門家としてのコミュニケーション、特にコミュニケーションの場がどんどん増えていることについての多数の意見が届いています。IBLCE はこの問題に関して助言的意見を述べます。

IBLCE は最高水準の授乳と母乳育児支援の実践者である IBCLC を認定する世界的な機関です。IBLCE は 1985 年に公衆の健康・福祉・安全を守るために設立されました。IBCLC は一人一人が職務行動規範（CPC）に則り、クライアントの利益を守るため業務範囲内で支援します。また、対面するか、遠隔地通信であるか、オンラインであるかという相談方法にかかわらず、公衆の信頼に値するものでなくてはなりません。（IBCLC は IBLCE が定めた職務行動規範の懲戒手続き（2011）にも合致していません。）

この助言的意見は IBCLC の職務上、電子的コミュニケーションについてのめやすを示すものです。この文章は IBCLC の職務行動規範(CPC)(2011)と業務範囲(2012)を支持し補足しています。（併せて読んでおいてください。）

職務行動規範と業務範囲は：

- 1) IBCLC が責任をもって行う専門的行為を含みます。
- 2) IBCLC 資格者が実践を行うどこの国にも、どの場所にも適用されます。
- 3) IBCLC 一人一人とその職務が公衆の信頼を得るためのものです。

世界中の多くの場所で、電子的コミュニケーションやソーシャルメディアの使用は広がり、当たり前ものになってきています。「ソーシャルメディア」という言葉は、個人的な、また公共のウェブサイト、ブログ、ディスカッションボード、オンラインで共有されたいろいろなもの(文章、写真、映像、ビデオ、オーディオのような)のオンライン上でのやりとりの様式を指します。「ソーシャルネットワーキング」とはソーシャルメディアを使用して作られた他人との相互作用や人との結びつきを指します。ソーシャルメディアもソーシャルネット

トワーキングにも長所がありますが、その反動も見逃せません。いいことも悪いことも目立ち、拡散し、消えないものになってしまうかもしれません。IBCLC は以下に書かれたように適切で責任を持ったソーシャルメディアやソーシャルネットワークワーキングの使用を支持します。この助言は IBCLC が CPC や業務範囲で求められていることに従ってソーシャルメディアの責任ある使用をできるようにするものです。

この助言的意見は公衆だけではなく IBCLC の個人との職務の誠実さがいつでも守られていることを保証するための、広範な原則と考慮すべき問題を提示しています。とはいえ、ソーシャルメディアの性質によって起こる様々な状況や範囲に必ずしも対応しているわけではありません。意図しているのは新しく出現してきた技術にどうやって原則を再対応をしていくかということです。ソーシャルメディアを使ったり、ソーシャルネットワークワーキングに参入する前に、IBCLC の皆さんは個人向けのソーシャルメディアの妥当性がどうであるか、個人や専門家としてそれを使用するときの利点・欠点についてはっきりさせて馴染むことが適切と考えます。この助言的意見はソーシャルメディアやネットワークワーキング使用の基準を示しているのではなく、IBCLC にとっての情報提示です。

支援することについて

Provision of Care:

IBCLC は個人の偏見なく、入手できる範囲で最良のエビデンスを基に文化的に適切な支援を引き受けます。正当な支援の基準に従い順守することが IBCLC にとって大切なことです。そして、このことは依頼者と対面して支援するときもオンラインでの相互関係のときも同じく適用されます。クライアントがオンラインでの相互関係を持っているときは個人的なかつ専門家としての相談の答えを求めていることがあることに注意しなくてはなりません。情報を提供する側はこういったオンラインの関係を持っている間、臨床的責任を免除されているわけではありません。

IBCLC がオンラインでの相談にどう対処するか計画を立てることは価値のあることです。オンライン上の関係では明らかに限度があることをクライアントに理解してもらうこともこのことに含まれます。たとえば乳房の診察や乳児の口腔の解剖学的診察ができないこと、授乳の様子や吸い付き方の対面での観察ができないことなど特有の困難についてです。一般的な情報以上の支援が求められた場合、おそらくクライアントは電話で相談の予約を取るよう、とか適切な支援が受けられるように公開ではなく非公開の場でコミュニケーションをとるよう指示されるでしょう。そうすることにより、IBCLC は相談することの同意を取り、十分な医療的記録をつけ、クライアントのかかっている他の医療関係者に連絡するなどの専門的な義務の遂行をできるようになります。

常に専門家としてふるまい、インターネットは公共のもので永遠であることを知ってください。

Remain professional and remember that the internet is public and forever:

IBCLC は常に行為に注意を払い、確かなものにしようと努力しなくてはなりません。オンライン上での活動についても一人の IBCLC として専門家としての評判も資格の高潔性も守らなくてはなりません。ヘルスケアチームの一人として IBCLC の立派な行為が求められるのと同じようにソーシャルメディア上でも求められるのです。電子的コミュニケーションの領域においてはプライバシーもセキュリティーもプロテクションもありません。オンライン上でプライバシーを設定したといっても、完全なものではなく、内容がひとたび流出すれば、いくら削除してもサーバーには永久に残り、インターネット上のどこへでも流出の可能性は残ります。私的なやりとりも公開され、世間の信頼を失うことにもなりかねません。いくら非公開の場でも出されても 名誉を傷つけるようなコメントもインターネットに載ってしまえばたやすく拡散しやすく、あっという間に恒久的なものになってしまうかもしれないのです。IBCLC はソーシャルメディアに出る利益相反に関することにもはっきりとした立場をとってください。金融取引などについても同じです。コンテンツの制作者の名前をクレジットすることや、他人の知的財産が尊重されることは重要です。ソーシャルメディアは嫌がらせやいじめに使うものではありません。IBCLC は自分がインターネット上でどうみえているかを知り、個人のそして専門家としての情報が正確で適切なものであるように自分で管理してください。

一番大切なのは、患者のプライバシーと秘密を守ることです。

Above all, protect patient privacy and confidentiality:

患者のプライバシーと秘密の基準はどんな環境下、オンライン上でも同じであることに留意してください。IBCLC には常時クライアントやその家族の秘密を保護する義務があります。オンライン上で情報共有することは口頭で共有したときに比べて伝わる速さや潜在的な聞き手の多さのため、よりダメージを受けることがあることを心に留めていてください。匿名で明かされた情報については患者に対する直接の守秘義務違反になることはないでしょうが、それでも誰であるかわかるかもしれませんし、そういった行為は不適切です。たとえば患者さんや支援を受けている人の写真を許諾なく公開したり、患者さんやその家族について不適切なコメントを公表したりすることがそれにあたります。さほどひどくない行いでもダメージとなることもあるのです。たとえば、その IBCLC がクライアントについての個人情報を公開共有した一人めでなくても、もっと詳細なことについての意見交換がつづいたりすることがあります。

情報共有

Information sharing:

ソーシャルメディアは大切な専門の境界をあいまいにすることがあります。IBCLC はソーシャルメディア上の患者さん言い換えればサービスを受けている人との契約がなくても他の人がやりとりにアクセスできることに留意することが重要です。下品な言葉づかいをせず、敬意を持って見解や意見を述べるのが安全策と言えるでしょう。オンラインでのエチケットは文章がどんな受け手にとっても適切であることです。もしオンライン上に公開された何か IBCLC の専門性とか評判を傷つけているかもしれないとなった場合、それに対して意見を言うときはソーシャルメディア以外の手段にしたほうが適切と思われます。誰か他の人の公開したことを容認することはその公開した人の視点を支持したと思わせることになるかもしれません。一番いい実践は：ソーシャルメディアやソーシャルネットワーキングは必要としている家族が情報や支援を見つける助けになります。IBCLC はそれぞれの背景や経験を用いて、

エビデンスに基づく情報を発信する立場にあります。ソーシャルメディアを使用する場合、オンラインの領域で起こりうる様々な状況に対処できて、公衆と IBCLC 個人の評判を守ることができる行動することができれば公衆の信頼を保つことができるのです。